

平成29年度 (H29.4/1~H30.3/31)
医接連携室 診察依頼データについて

公益社団法人 大阪府柔道整復師会
研究事業部

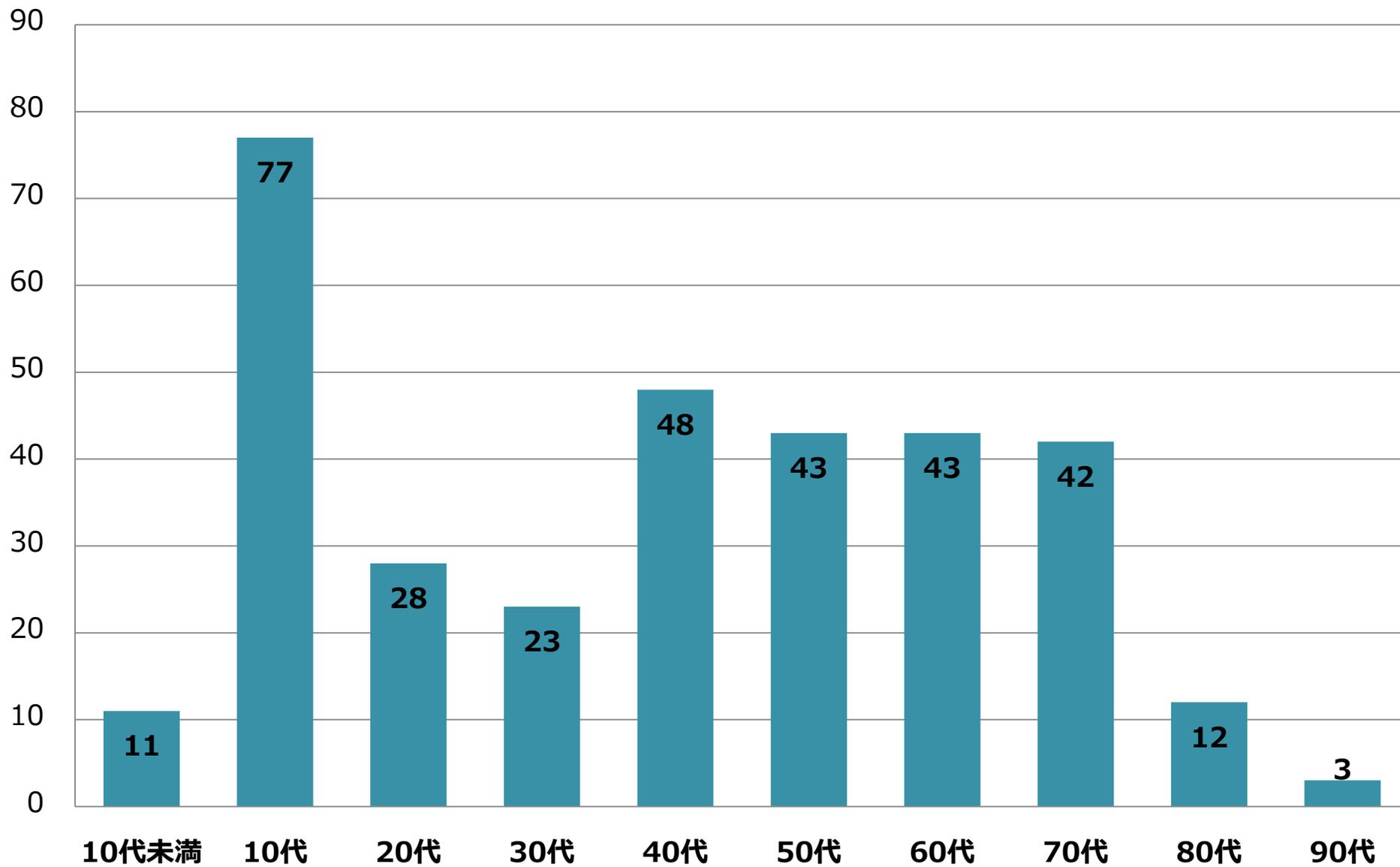
はじめに

当会では公益事業の一環として、一人ひとりにあった適切な医療を提供し、より府民の健康保持・増進のために貢献することや、柔道整復術の発展のためにさまざまなデータ収集を目的として「**医接連携室**」を運営しています。医接連携室では、医師と柔道整復師が府民の健康のために情報の共有や、症状に応じて連携し対応にあたっています。

平成29年度 医接連携室診察依頼データを怪我の状況やどのような傾向があるか等について分析しました。

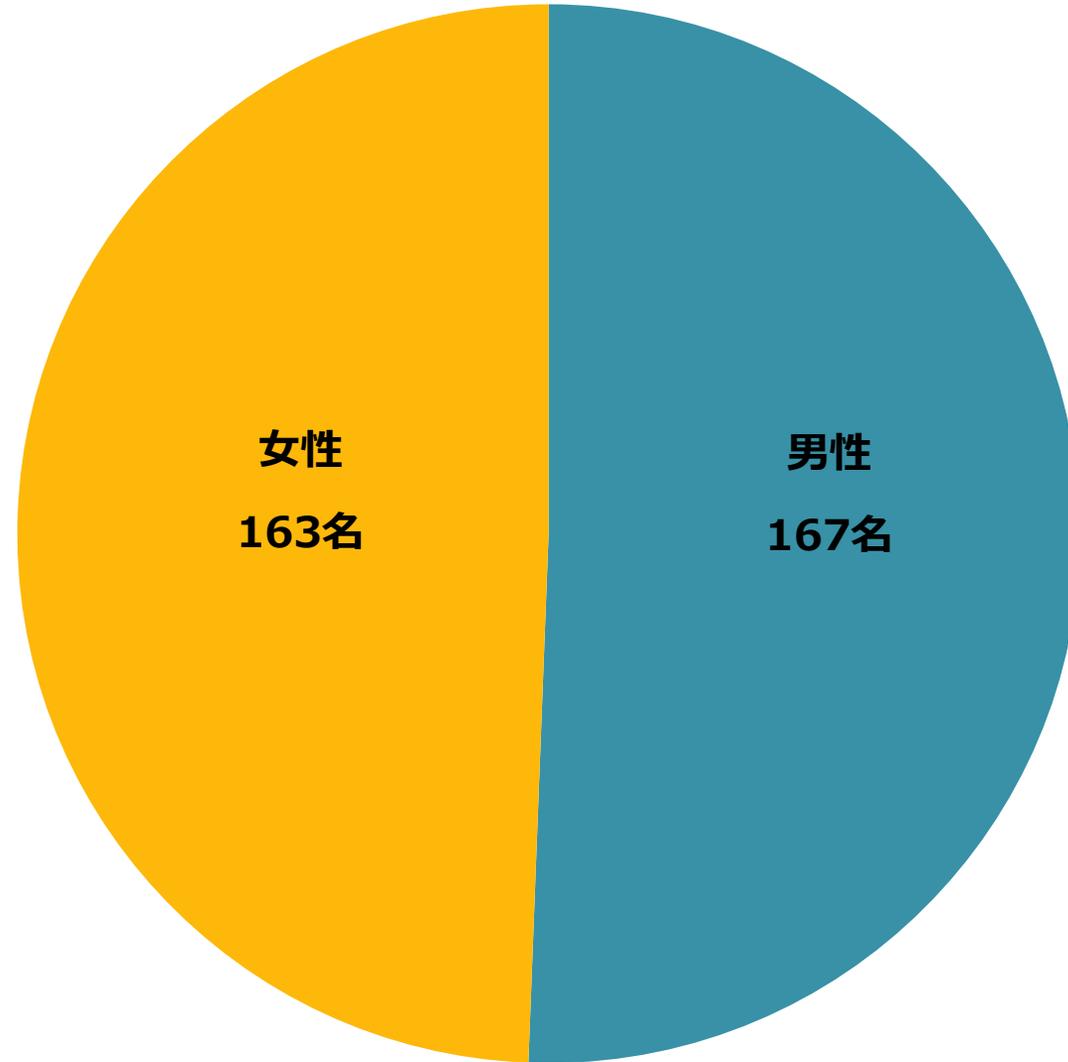
年代別 診察依頼者数

(330名)

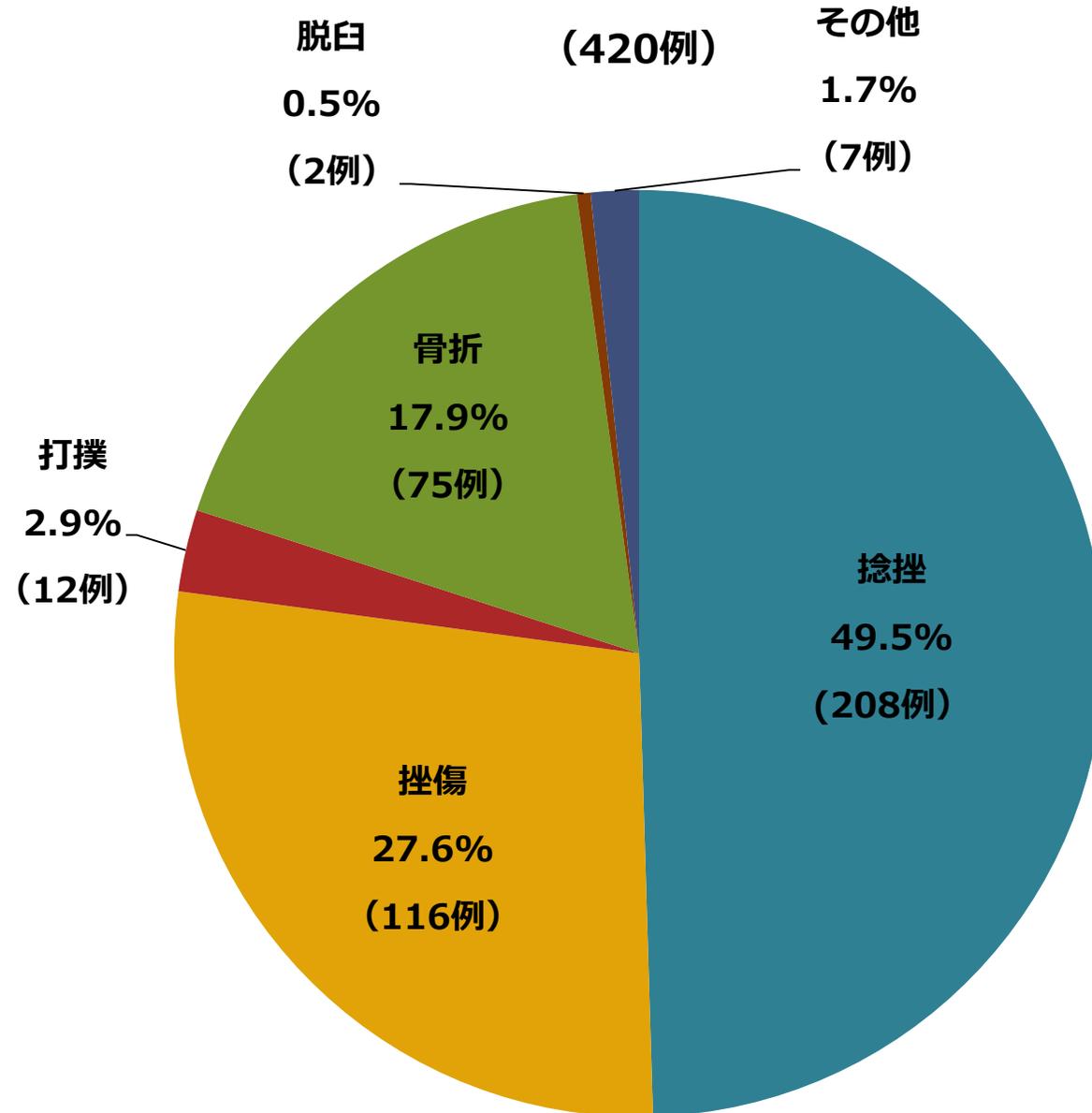


男女比

(330名)

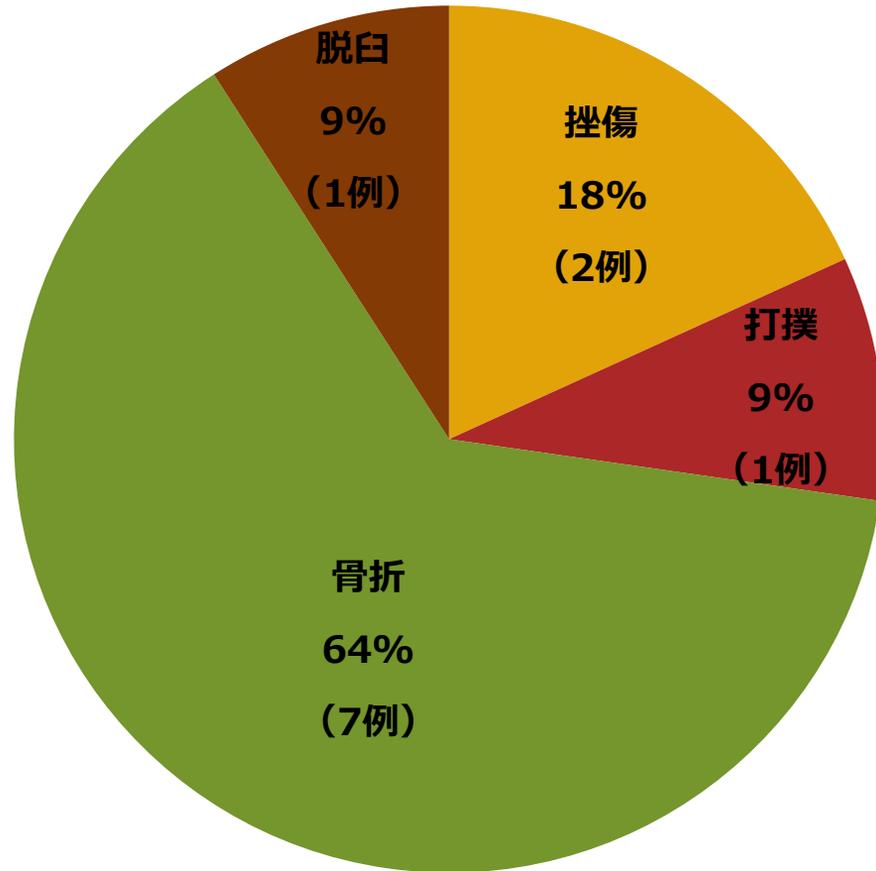


医師による診断・傷病名



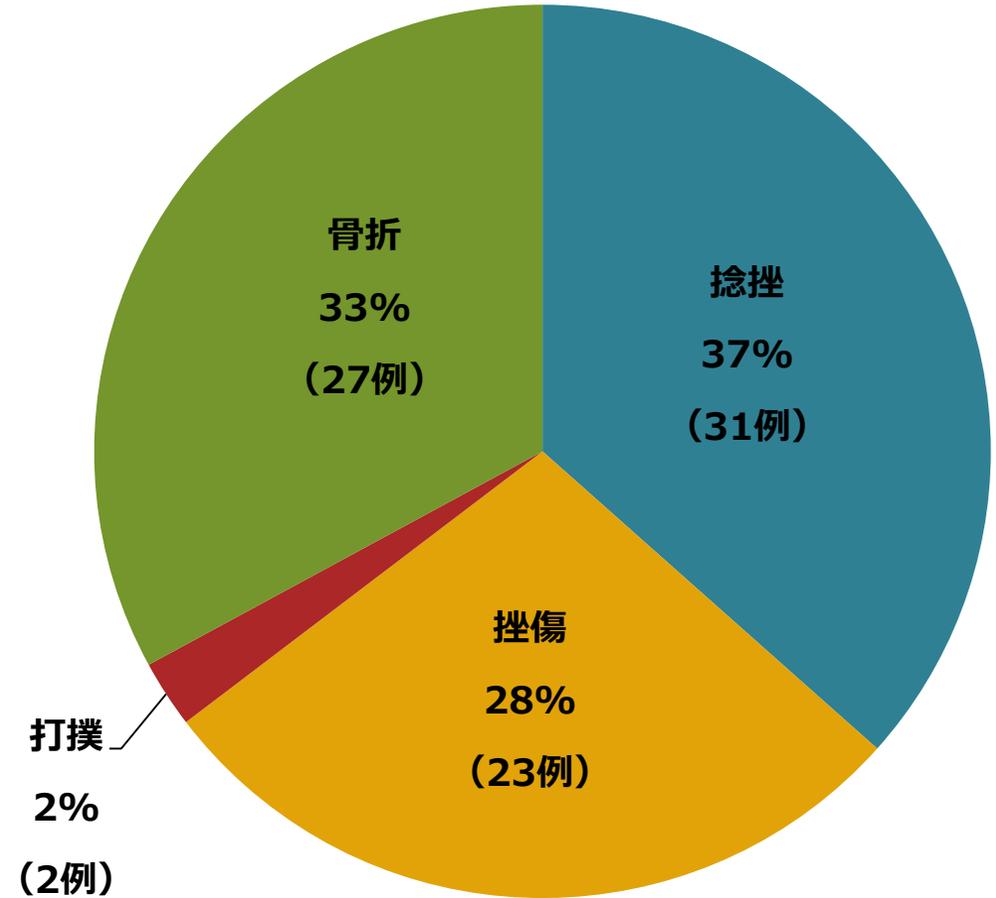
10歳未満の傷病

(11例)

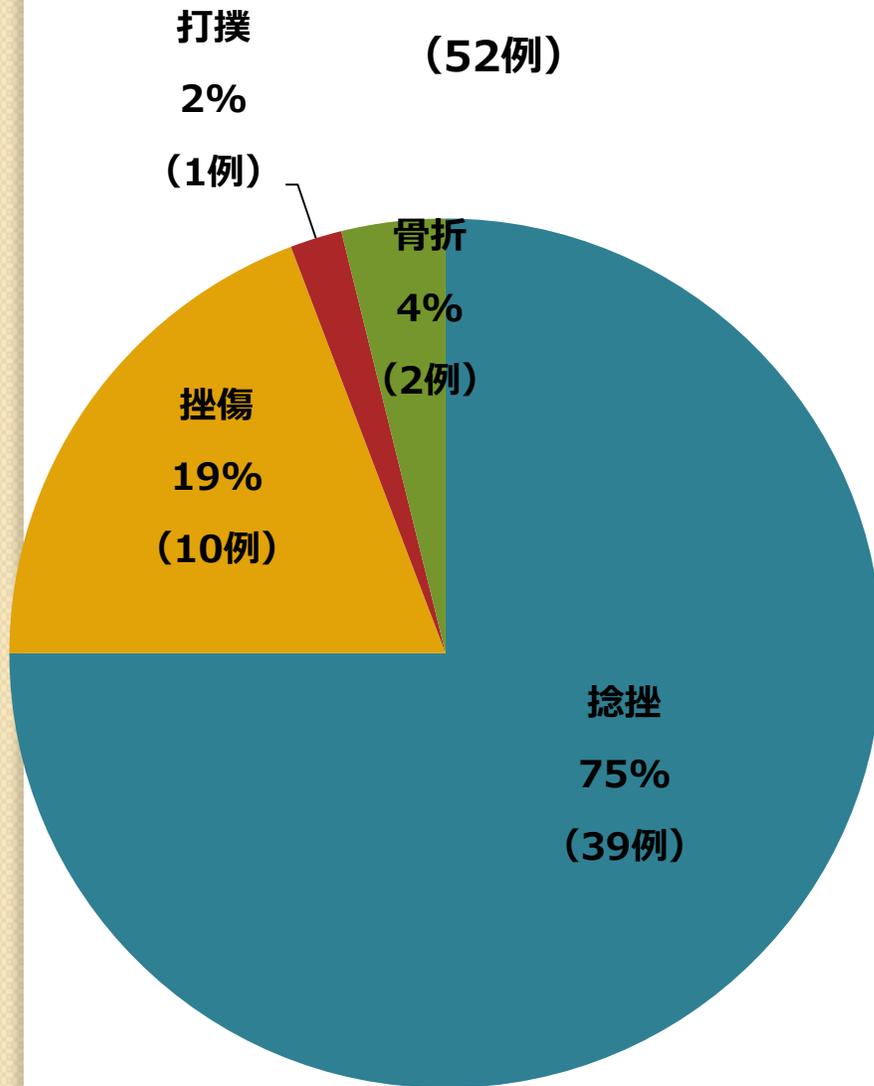


10代の傷病

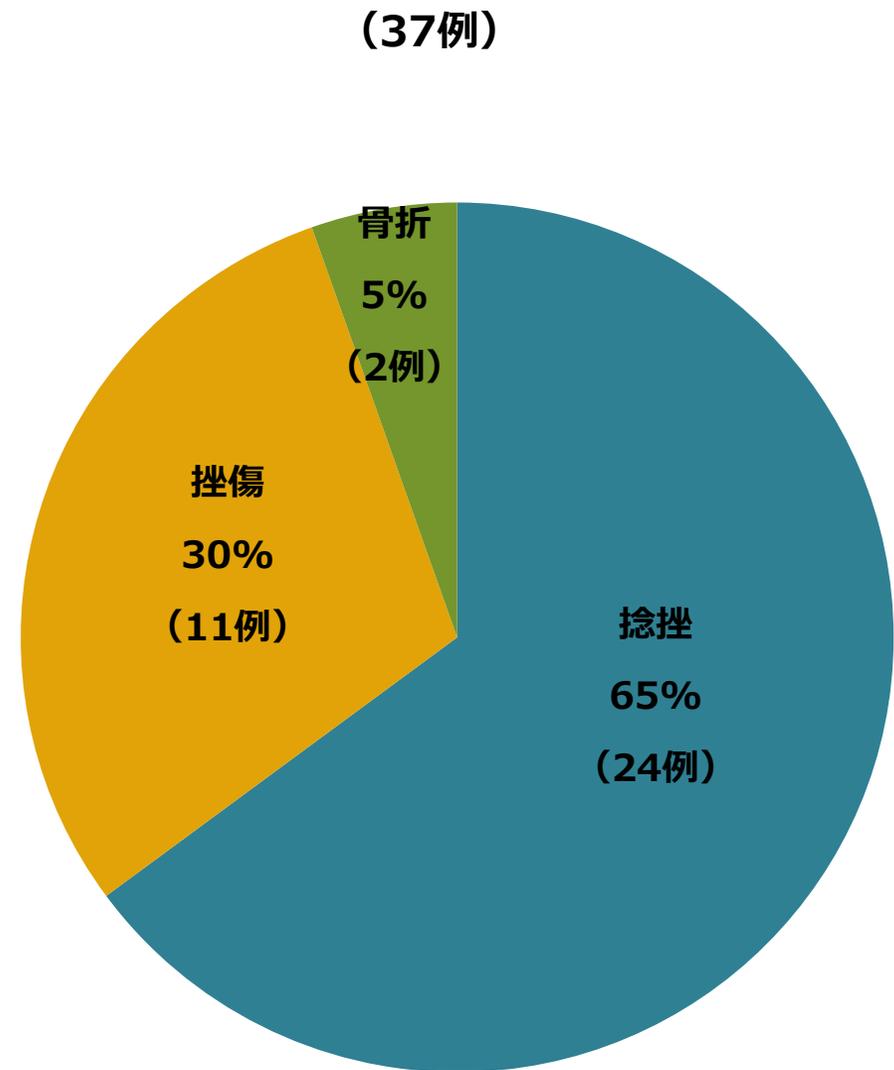
(82例)



20代の傷病

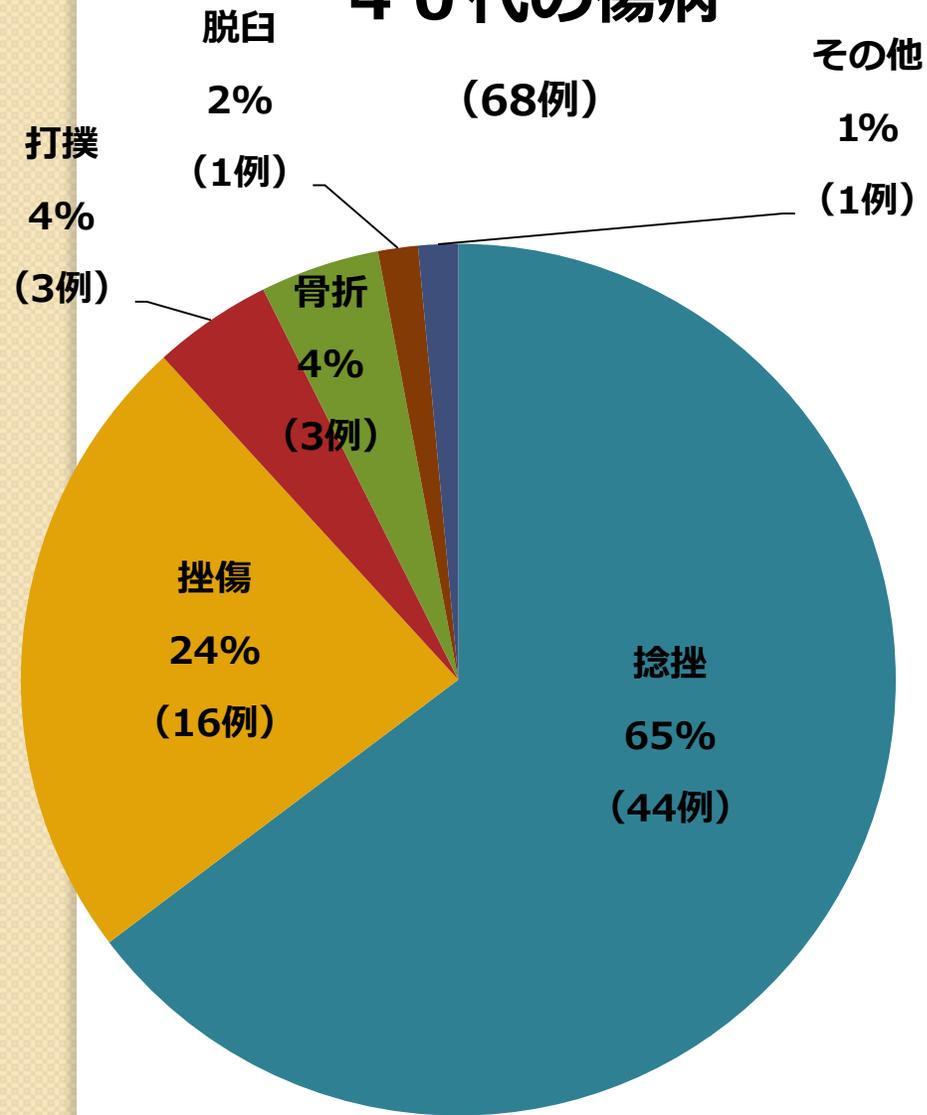


30代の傷病



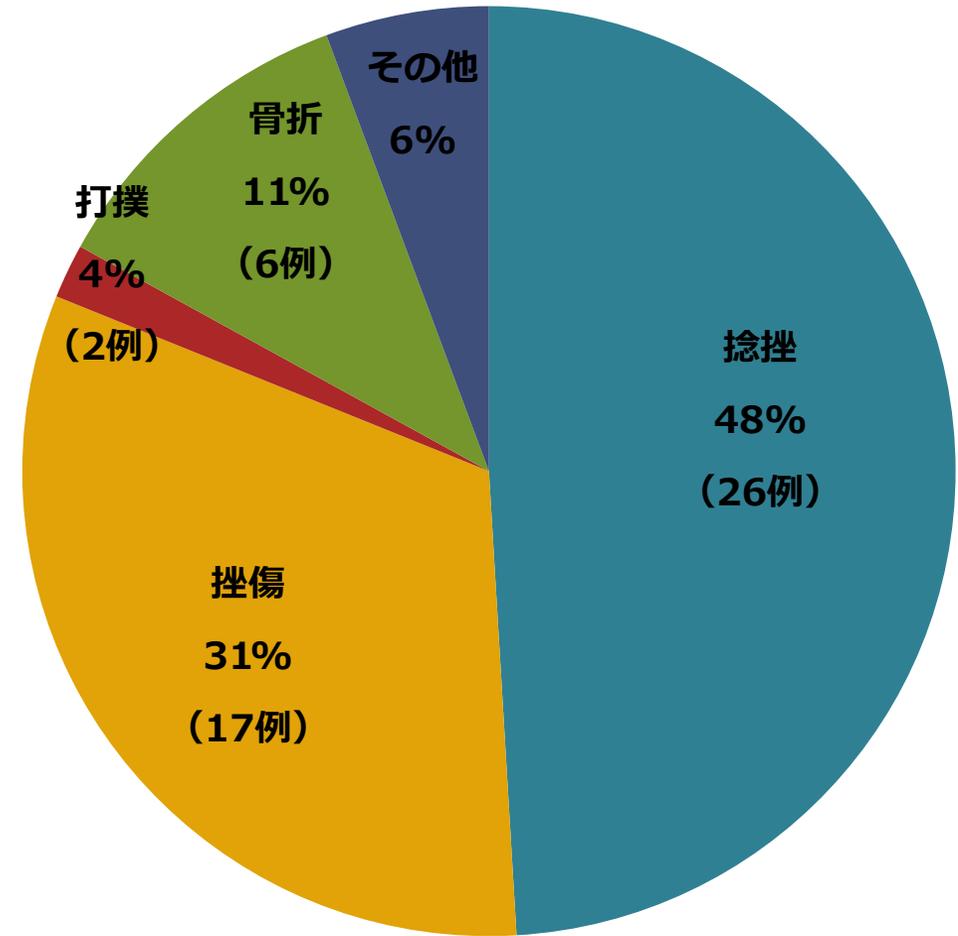
40代の傷病

(68例)



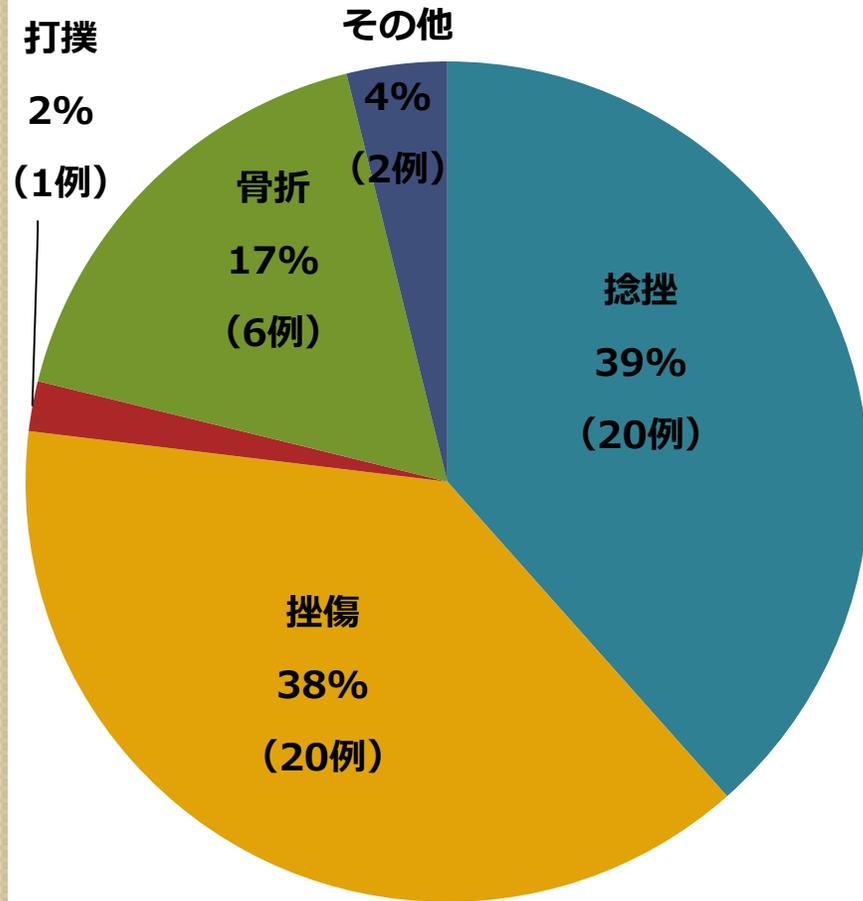
50代の傷病

(54例)



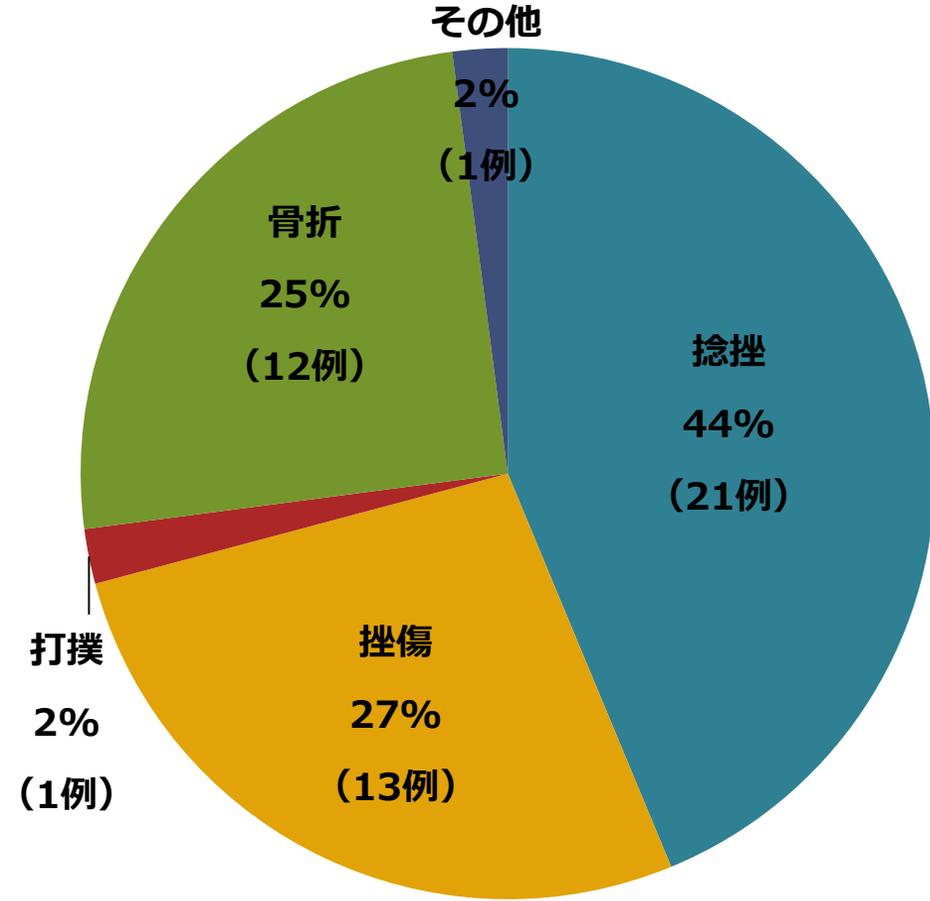
60代の傷病

(52例)



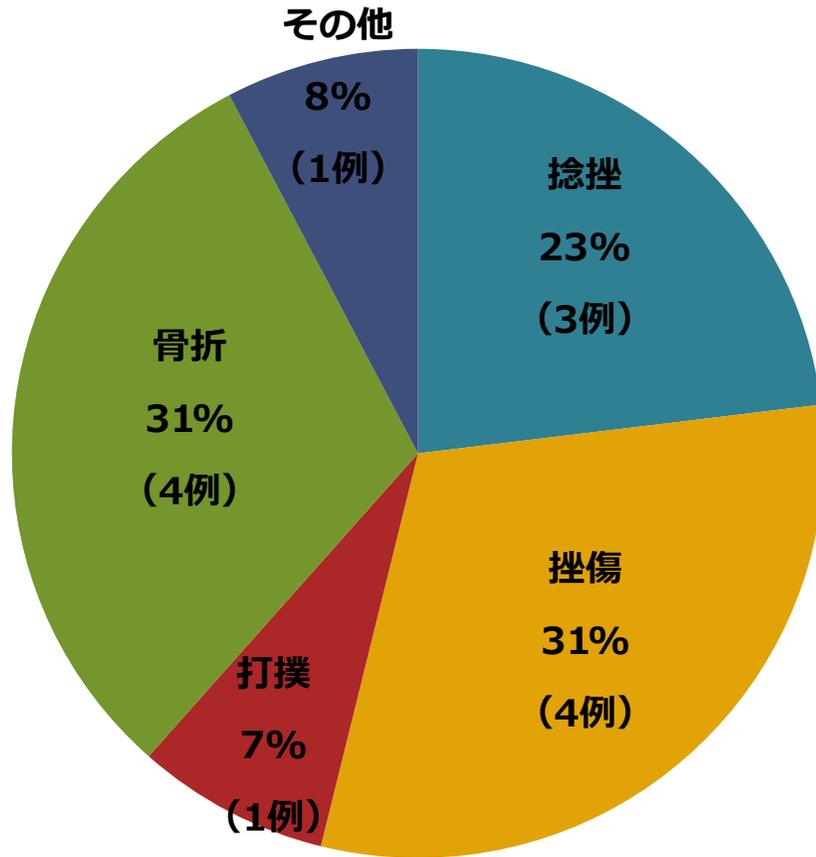
70代の傷病

(48例)



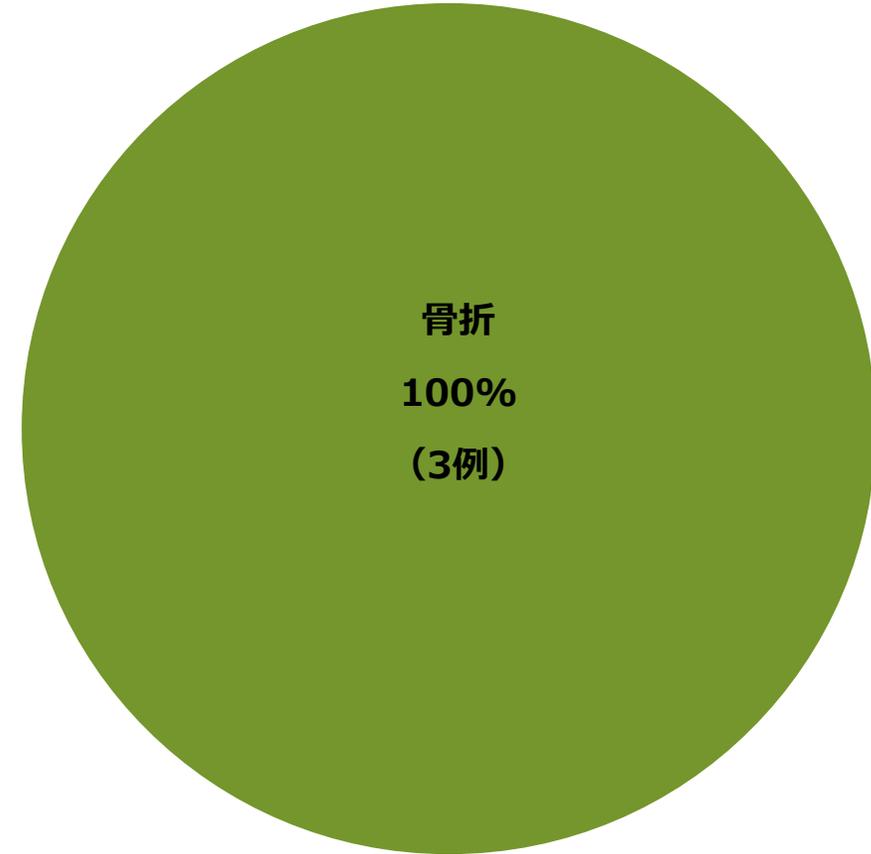
80代の傷病

(13例)

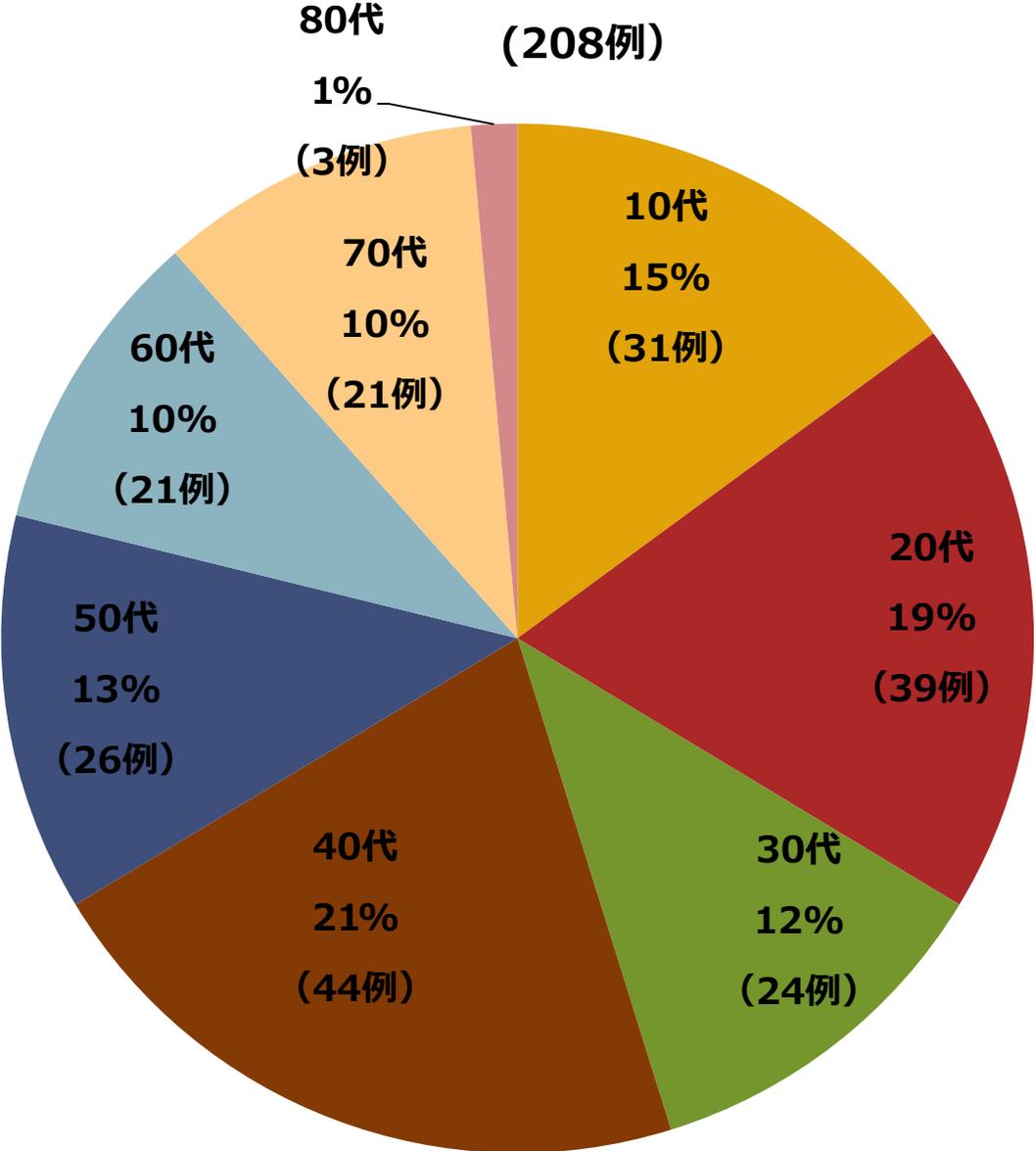


90代の傷病

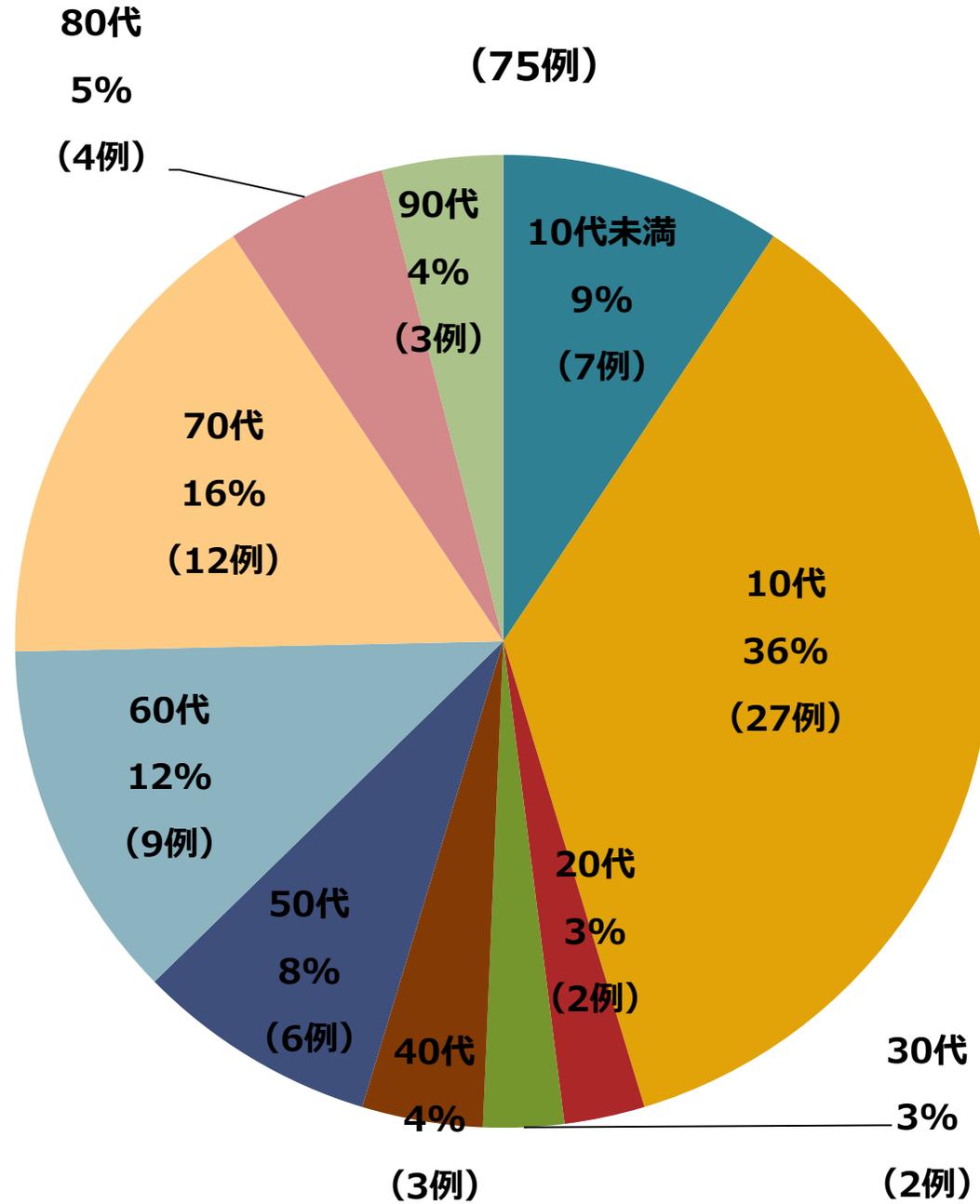
(3例)



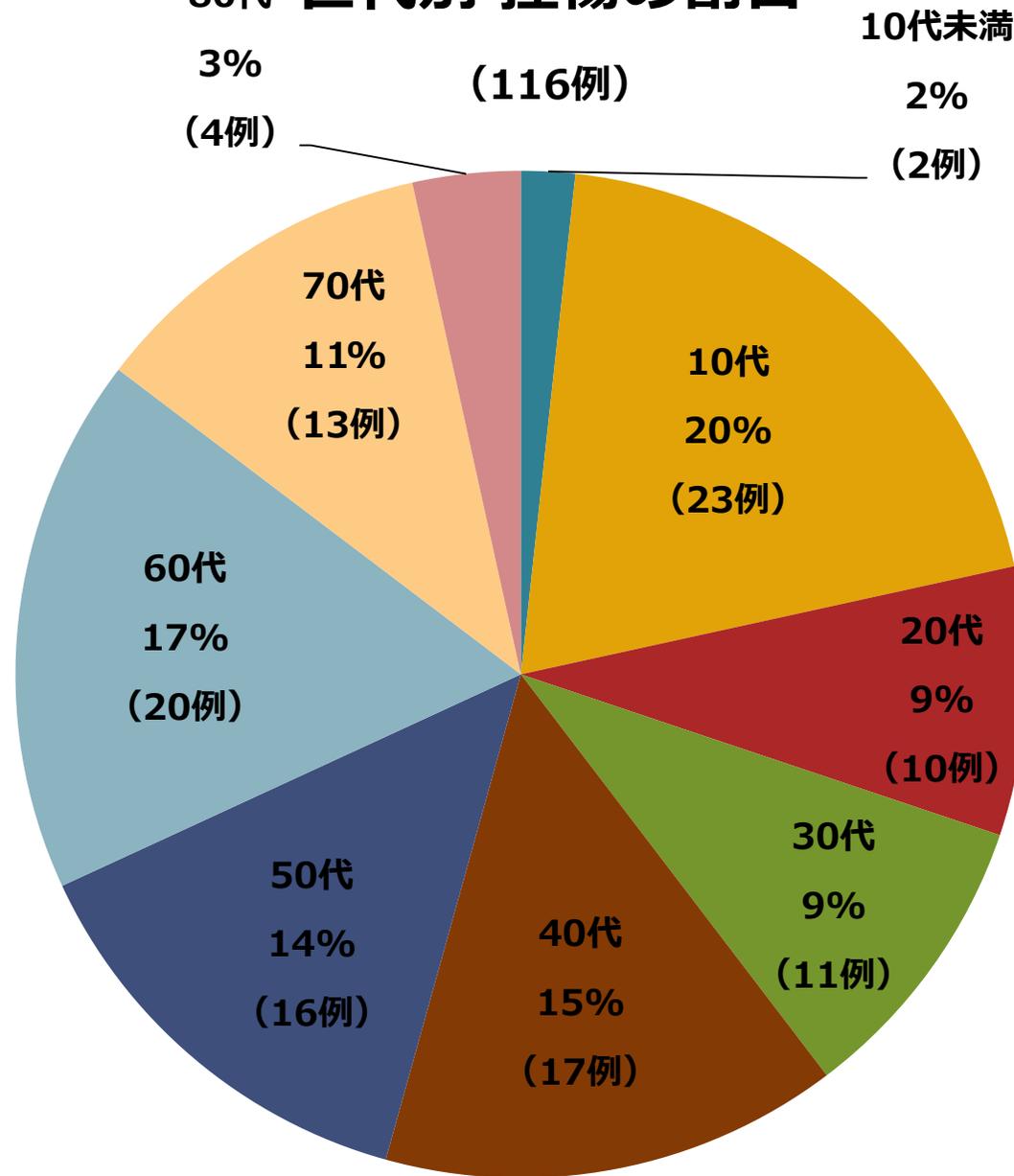
世代別 捻挫の割合



世代別 骨折の割合

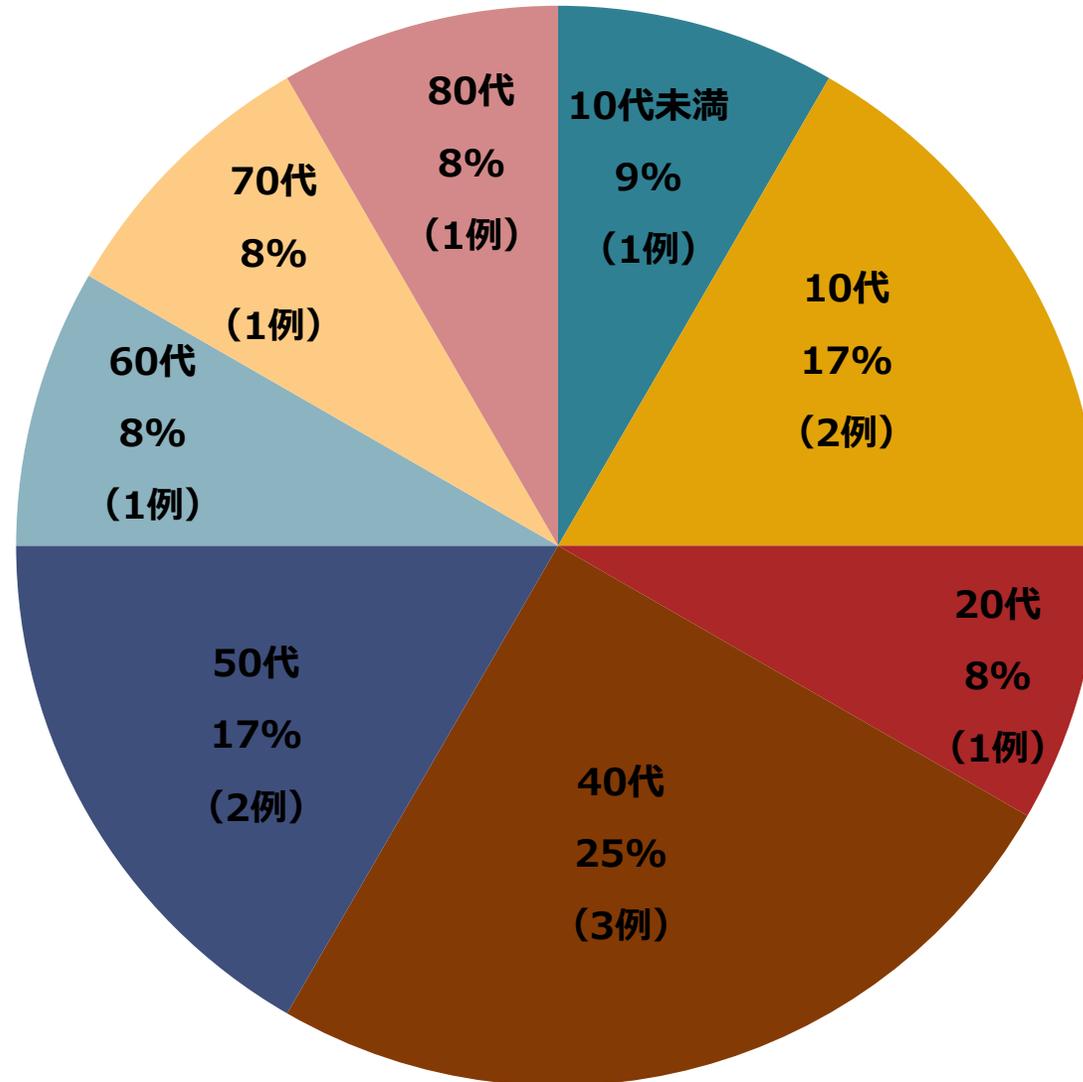


世代別 挫傷の割合

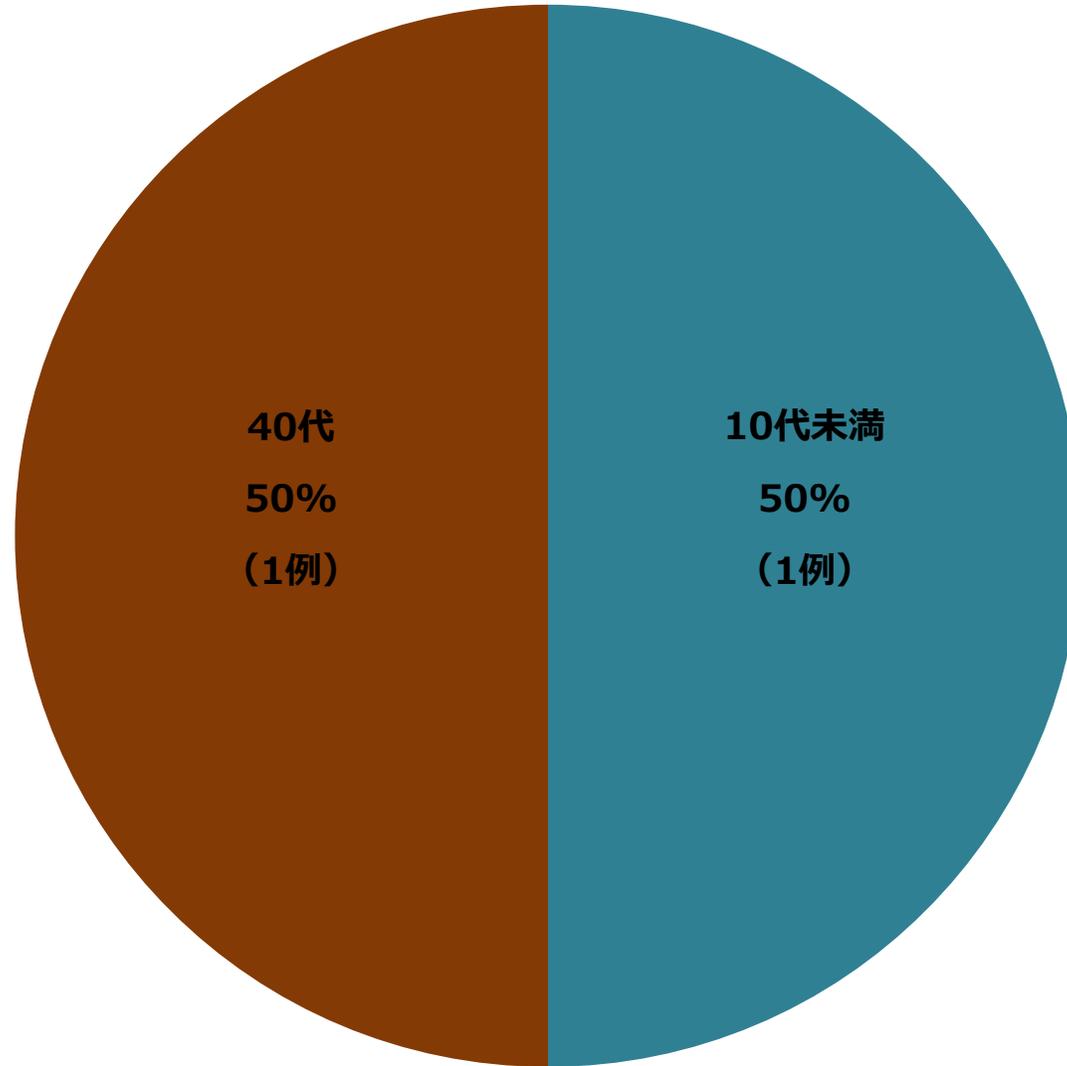


世代別 打撲の割合

(12例)

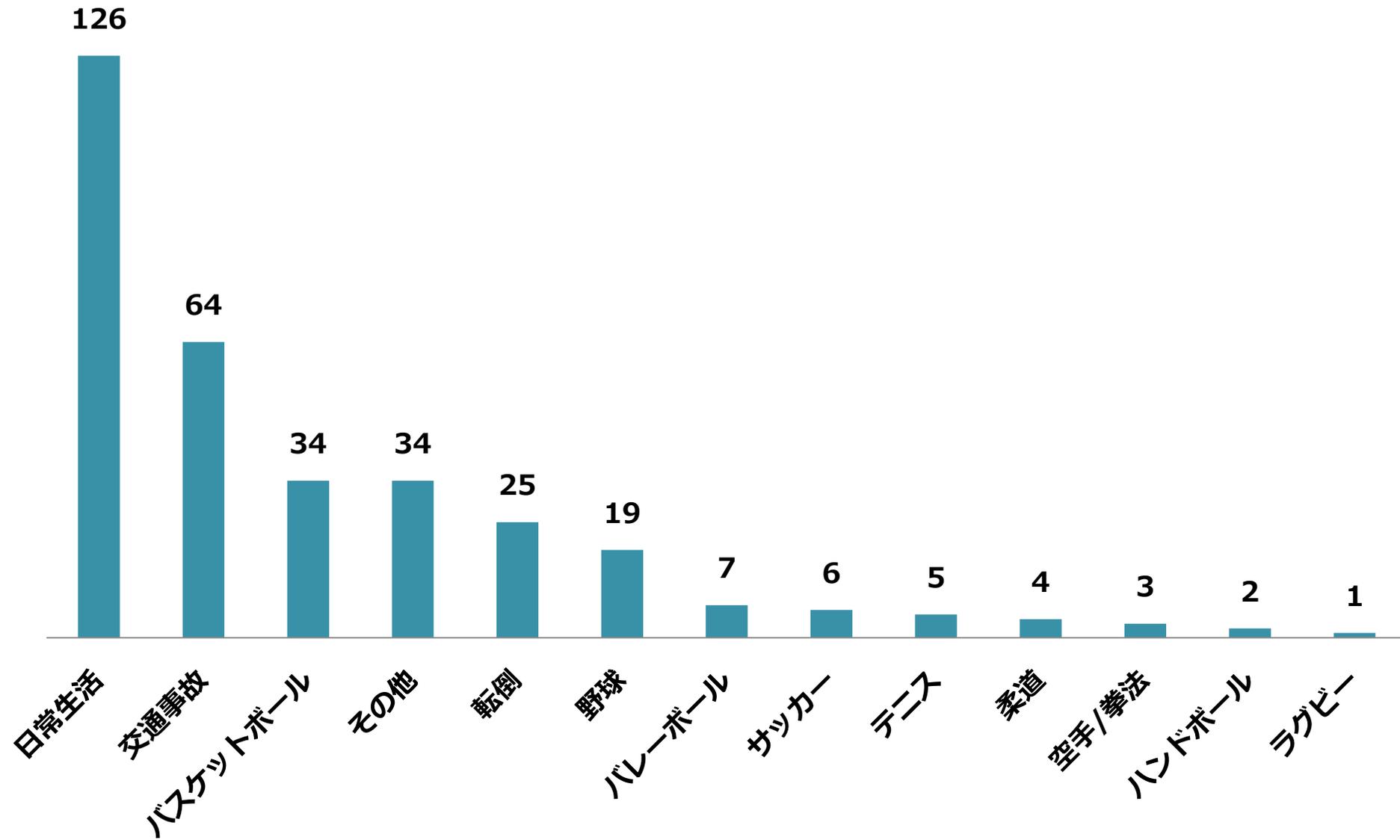


脱臼の割合



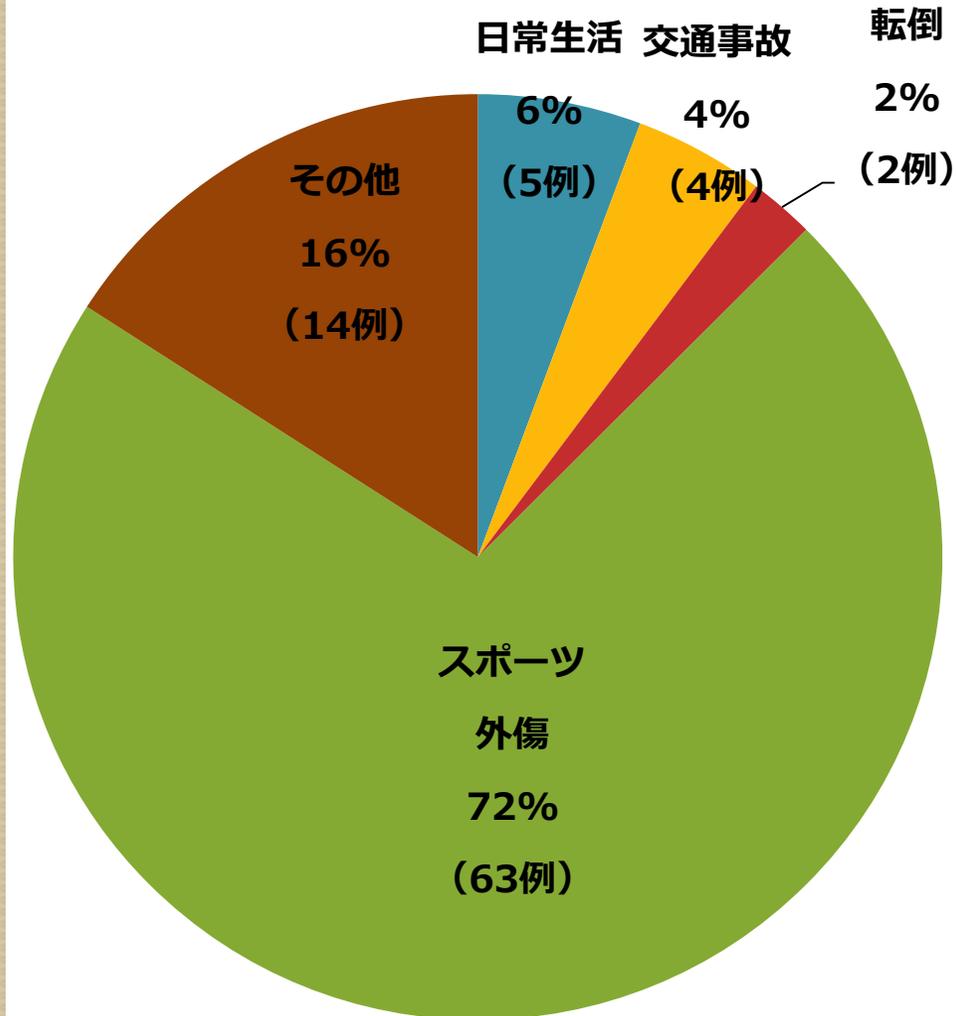
原因

(330例)



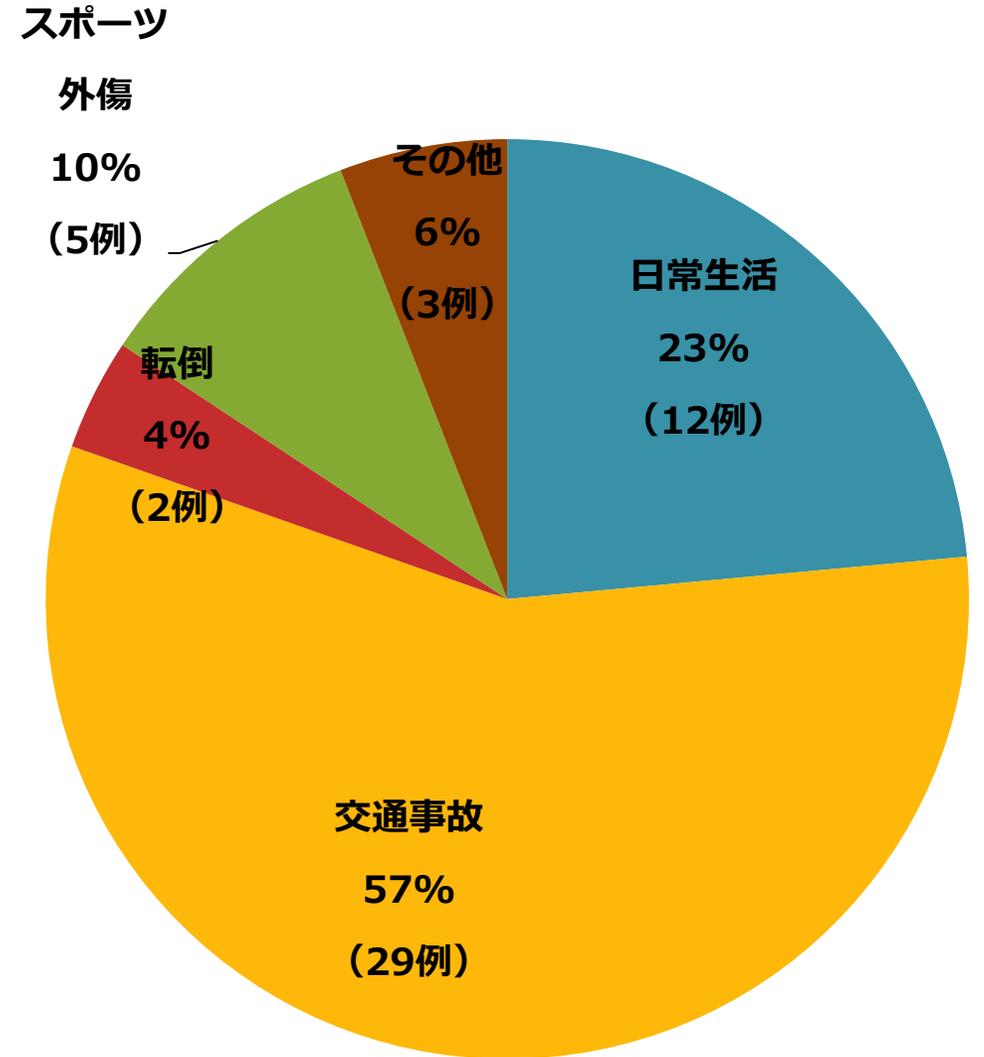
10代未満、10代の原因

(88例)



20代~30代の原因

(51例)



40代～60代の原因

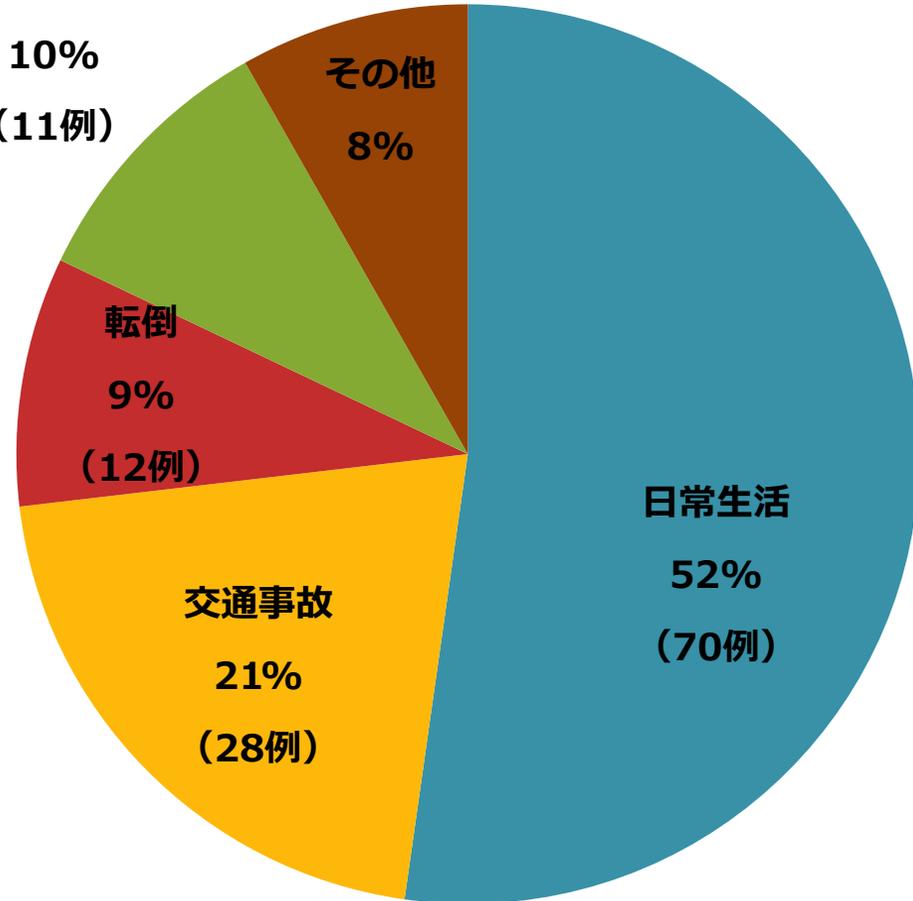
(134例)

スポーツ

外傷

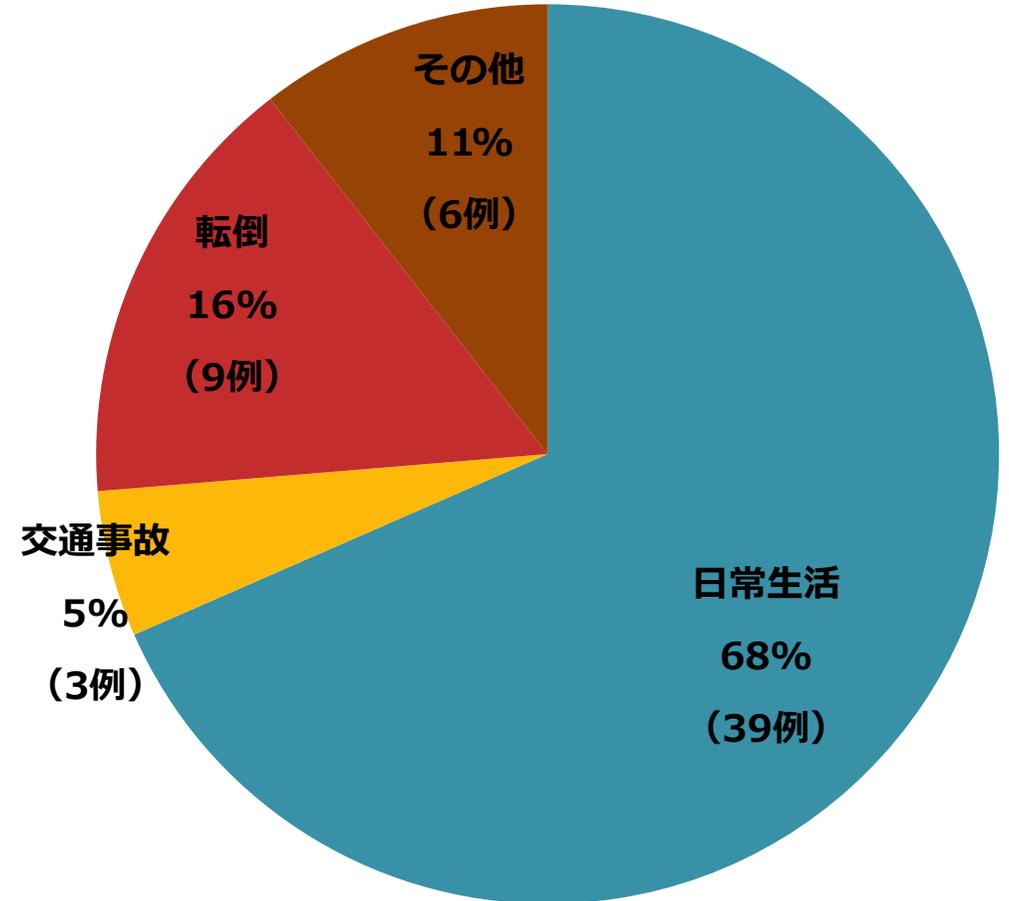
10%

(11例)



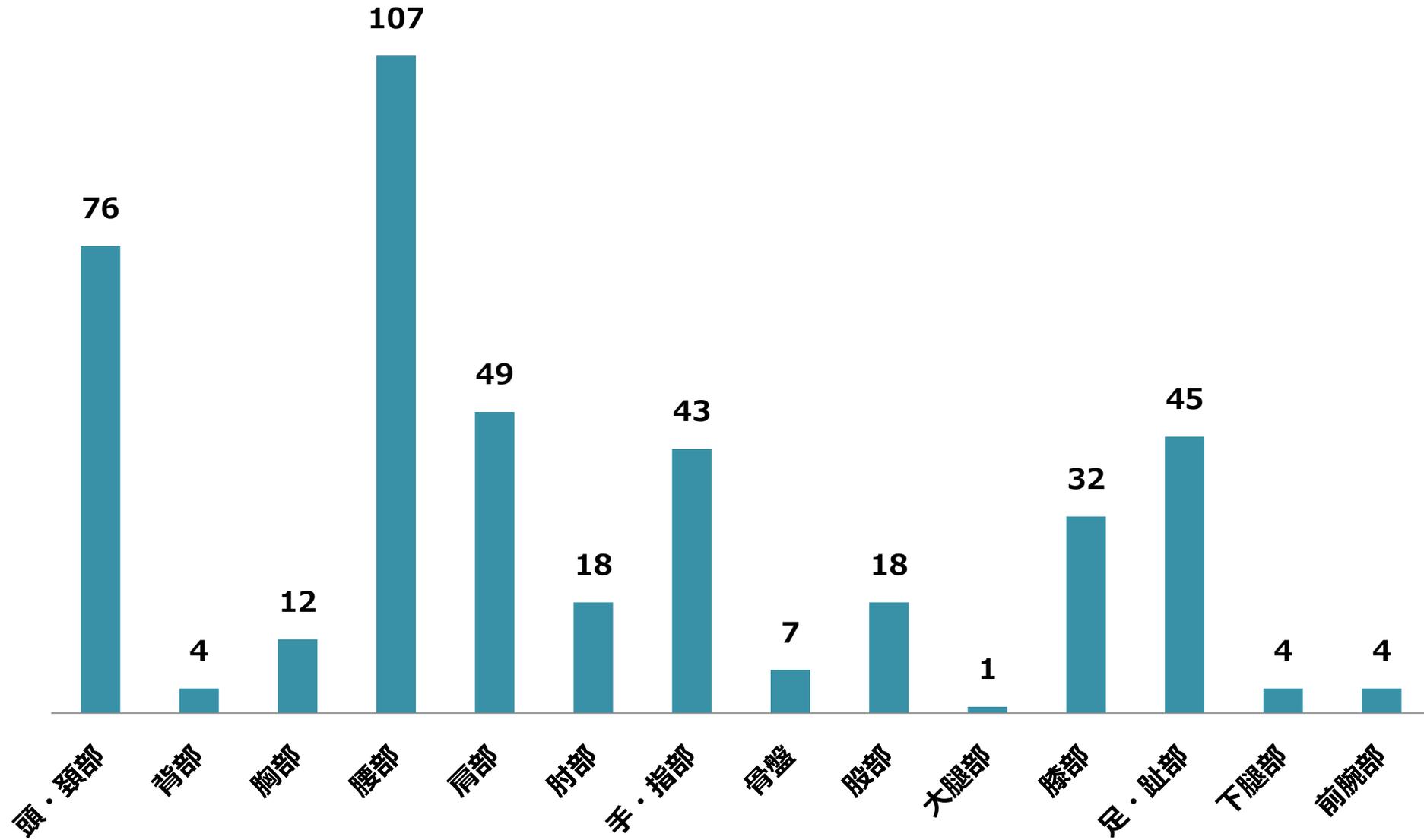
70代以降の原因

(57例)



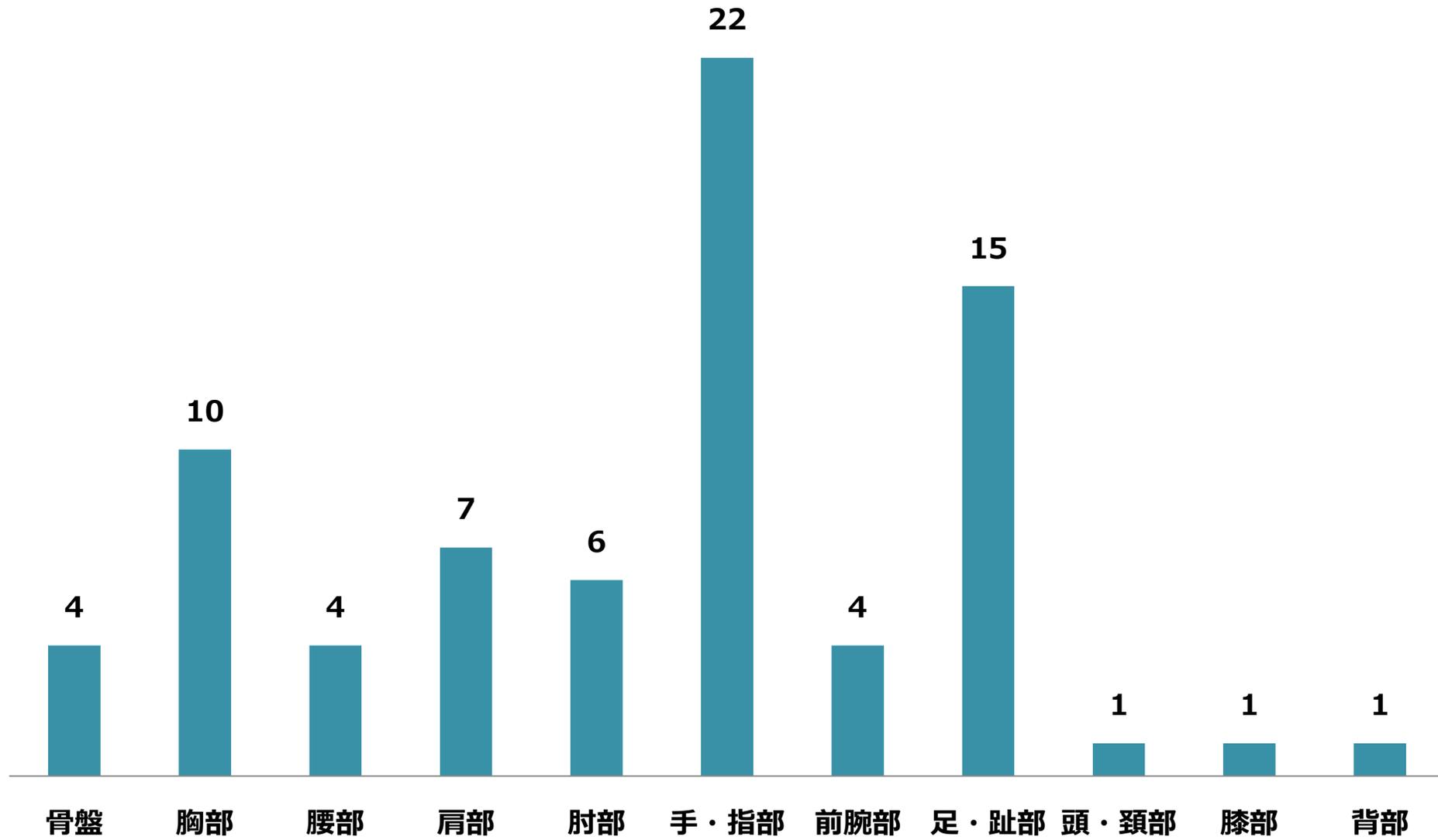
負傷部位

(420例)



骨折の部位

(75例)



脱臼の部位

(2例)

50%
(1例)



肩部

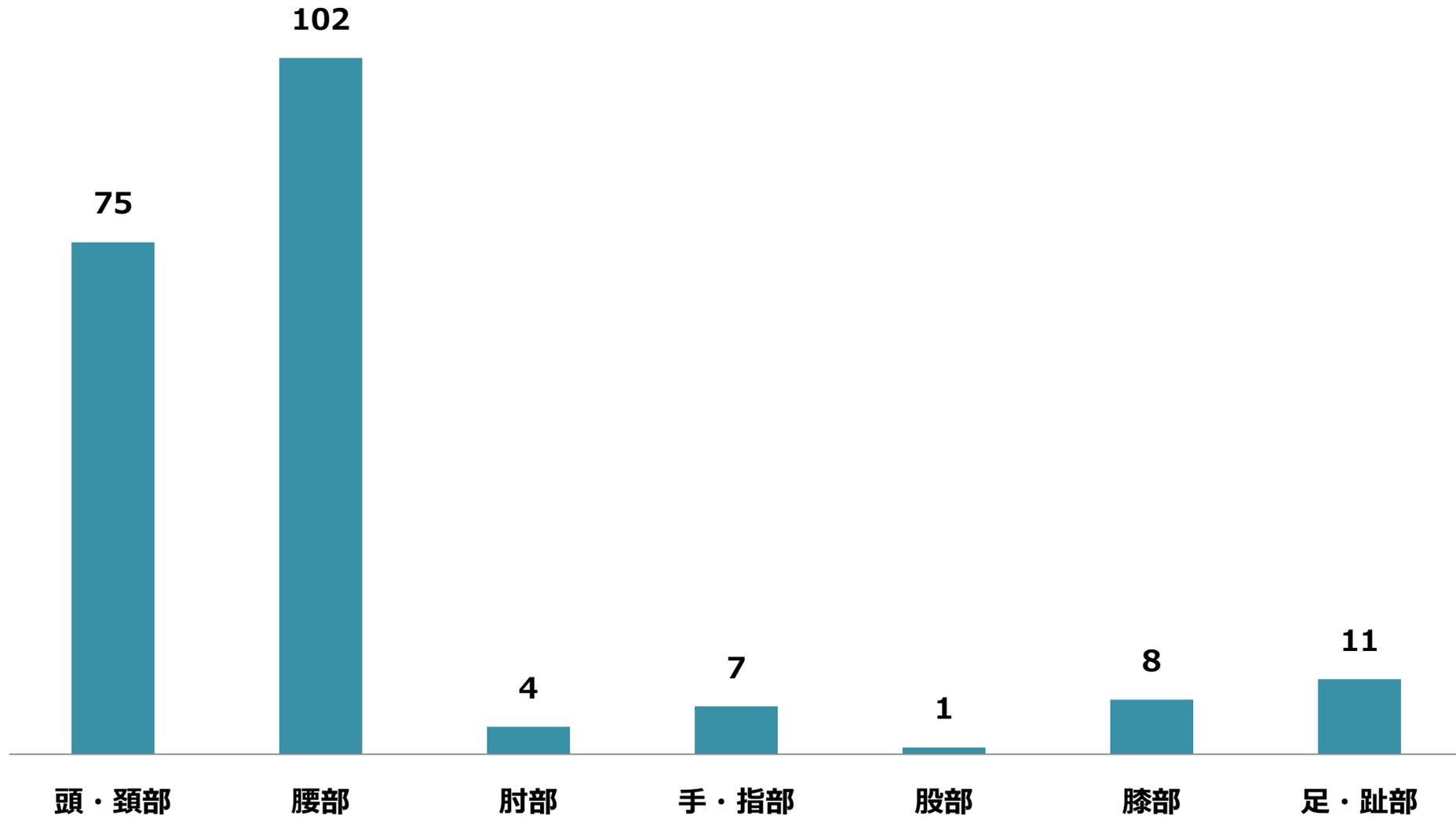
50%
(1例)



肘部

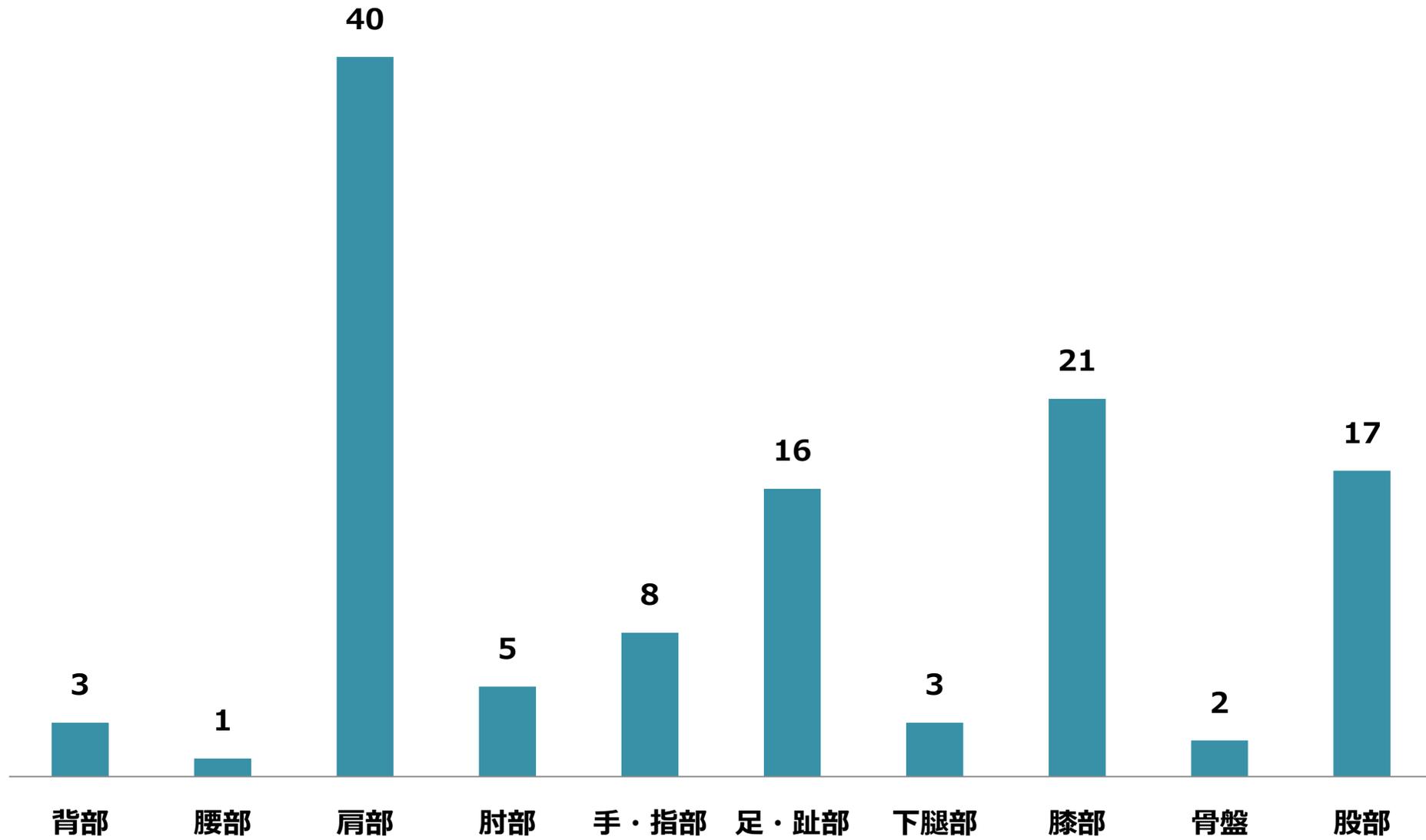
捻挫の部位

(208例)



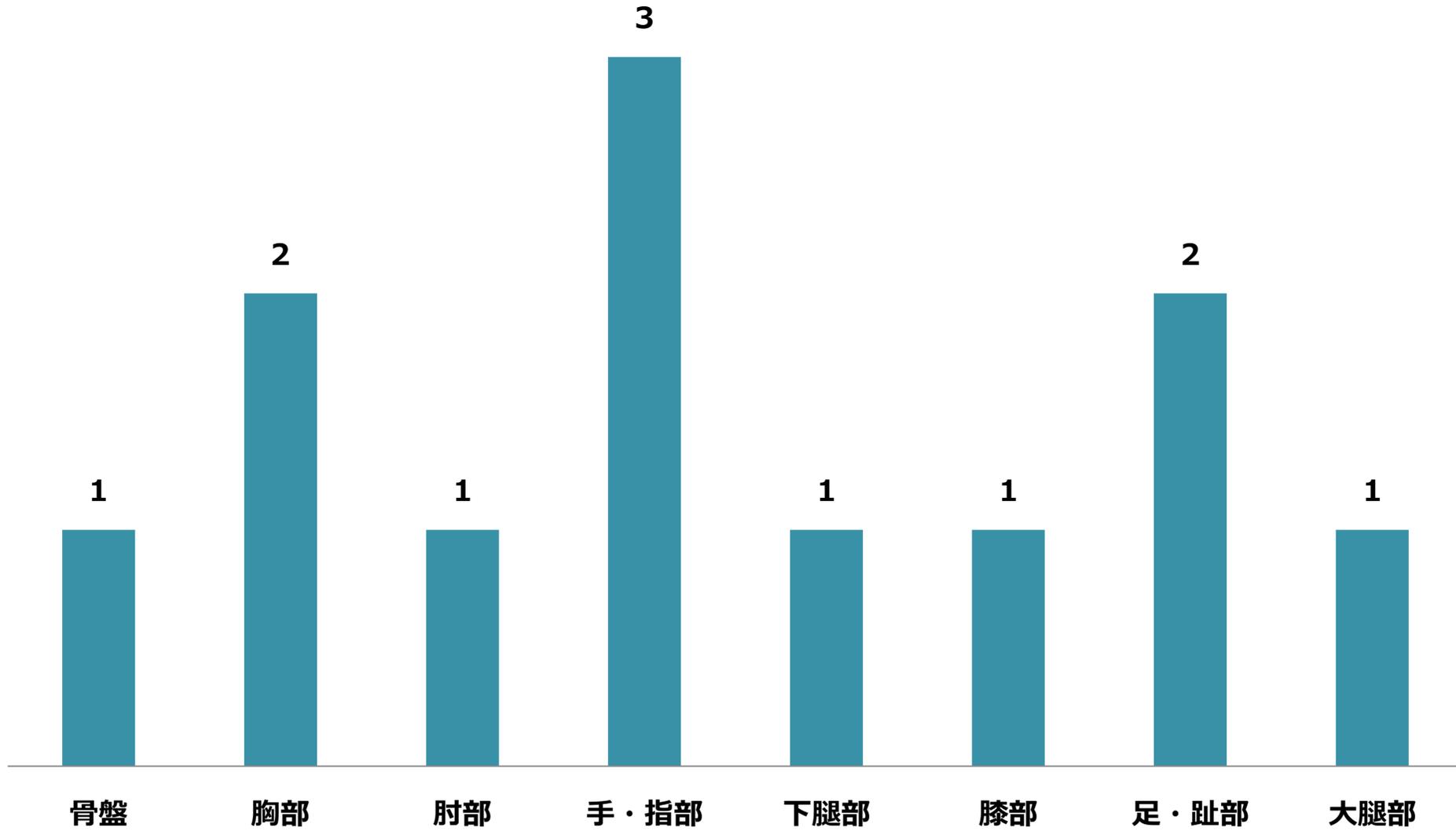
挫傷の部位

(116例)



打撲の部位

(12例)



まとめ

- ・ 医師に精査を求めた420傷病例中、413例(98.3%)が柔道整復師が扱うことの出来る骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷であった。
- ・ 全体の原因として、日常生活での受傷が38%を占めた。
- ・ 10歳未満～10代の症例では、スポーツ中の受傷が72%を占めた。また、捻挫のような症状でも骨折している症例は、他の年代と比較して多い。
- ・ 10歳未満では捻挫は0件で、骨折が1/3を占めた。

まとめ

- ・手指部の骨折の57%はバスケットボール中の受傷であった。
- ・挫傷は10代で最も多く、その86%がスポーツ中の受傷であった。40代以降になると日常生活での受傷が多かった。

医師と連携して情報共有することで、柔道整復師の施術範囲を超える疾患の早期発見は、患者(府民)の利益となる。